

14 けんき保育園研修の感想

私は、けんき保育園に研修へ行き、何よりも感心を持ったのが、小児慢性疾患児を受け入れている保育園であるという事でした。

様々な病氣と毎日闘い、一日一日を一生懸命生きている親子への支援をしているというお話を聞いた時、自然と涙が溢れている自分がありました。そして、感銘しました。私には、なにが出来るかな？大きな事は出来ないけど、私にも何か出来る事があるはず！と大きなヒントをもらえたように思いました。

管理職の立場としての、学びも多かったです。私は管理職2年目ですが、違う保育園の管理職の方と話す機会を持つ事も大事な事だなと思いました。

心が動いた研修に行つて良かったです。ただ、一つ残念だった事は、限られた時間の中で、話を深める所までいけなかつたことです。しかし、今後もけんき保育園の方とお話できる機会はあると思うので、その目をまた楽しみに待ちたいと思います。

田丸 あけみ

けんき保育園が行っている「家庭支援員について学んできました」。

具体的に行っている支援の一つに「小児慢性特定疾患児相談員」があります。病院での入退院を繰り返す難病を持つ親子は社会から孤立しがちだったり、家族全員で心配を抱え込みがちです。今は病院などで「親の会」があつたりしますが、保育園がその支援を行っている事に興味を持ちました。難病の子どもを持つ職員が居たことからこの支援を始めたのですが、親御さんの悩みを聞いたり、兄弟のしんどさと共に感じたり様々な角度から支援の手が差し伸べられていました。体調の良い時など主治医の判断で園児と遊ぶ事も出来るそうです。支援の話を聞きながら、「誰かの為にやらねばならないではなく、出来る人が出来るときに出来る事をする。」そんな言葉を考えていました。無理なく自分で出来る事を行つている印象でした。その反面、難病の親子の大変さが前面に出るあまり、園で支援を必要とするであろう親の支援を考え直したという話が出て、私は「比較できるものではないのでは」としつくりかない思いがありました。そこに至るまでの職員同士の議論がどんなものであつたのか知りたかつたのと、このしつくりかない思いが自分の家庭支援を考えるいい機会になりました。

新たなものを吸収しながらも自分の思いや考えを振り返る事が出来たように思います。

事務室 林 明子

「どこを見てもらつてもいい、気が付いたところは言つて欲しい」と最初に園長先生が言われた言葉を聞いて、隠すことはなく、そのまま伝える努力、良い保育を目指していく誠実な気持ちがあつてきました。園内を見学して、自分の保育のごたわつているポイントを改めて感じたり、室内環境で工夫しているところは、アトムでも取り入れていきたいと思ひました。その後の2時間の交流会はあつたという間で、まだまだ聞きたいことが一杯あり、泊まりたいと思う程でした。職員の方々は、その名前の通り元気で、一人ひとりがそれぞれの力を出し合つて保育している様に感じました。「ピンチをチャンスに変えて！」「みんなで共有する。痛みも、喜びも。」というお話を聞いて、アトムで大事にしていること重なり、気持ちとは同じなんだ！と涙がでそうになりました。これまでのつなかりを大事にして、これから繋がつていきたいと思ひました。

池本 美和

